HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治三二年
Citation	北大百年史, 史料(二), 497-515
Issue Date	1981-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30077
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo2_p497-515.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

明治三二年

九一六　助教授松村松年をドイツへ留学派遣の儀具状

札農秘第四号

海外留学生派遣ノ義具状

札幌農学校助教授松村松年

昆虫学ノ義ハ本道農事ノ改善発達ニ伴ヒ頗ブル緊要ノ学科ニシテ其応用ノ範囲拡張スルヲ以テ之ニ充ツヘキ学芸練達ノ教官ヲ挙クル必要有之候処右本人ハ明治二十八年六月本校卒業次テ一箇年間本校研究生トシテ専ラ昆虫学ヲ修メ明治二十九年七月廿九日札幌農学校助教授拝命已来今日ニ至ル迄昆虫学ノ授業ヲ担任シテ能ク職務ニ精励シ其成績見ルヘキモノアリ且平素品行方正授業懇切ニシテ将来学業上達ノ見込充分ニ有之者ニ付該教官トシテハ至極適任ト認メ候条特別ノ御詮議ヲ以テ昆虫学中特ニ害虫駆除法益虫保護法及養蜂論等研究ノ為メ三箇年間独逸国留学被命候様致度別紙履歴書[注]ヲ添ヘ此段具状候也

明治三十二年一月廿三日

文部大臣宛

校長

〔注〕別紙履歴書を欠く。

〔農六三一〕

九一七　農芸伝習科及び冬期講習科に関する校則改正の件稟申

札農庶第二〇号

明治三十二年二月廿四日

書記石田友治郎㊞

庶務課長㊞（石田）

校長㊞（佐藤）

教務部長㊞（宮部）

農事部長㊞（南）

校則中改正ノ件

本月廿一日教官会議ニ於テ決議シタル校則中改正ノ件左按之通御稟申相成可然哉相伺候也

按

札幌農学校々則中改正ノ義稟申

本校農芸伝習科ハ専ラ本道ニ適切ナル処ノ農理及実業ヲ教授シテ模範農家ヲ養成シ大ニ農業ノ改良進歩ヲ計ル目的ヲ以テ既ニ明治二十年三月設置シ爾来卒業生ヲ出センコト二百二十一名ニシテ卒業後ハ大概農事実業ニ就クヲ以テ今ヤ本道農事ノ発達上其効績著シク相顕ハレ候ヘ共同科修業年限ハ僅々二ケ年ニシテ其程度低キガ故充分修業スルヲ得サルヨリ入学志願者ニ満足ヲ与フルコト能ハサル而已ナラス農事教育ノ発達セシ今日ニアリテハ其程度ヲ高メ農事ニ関スル

中等教育ヲ授クル必要アルヲ認候条校則第三条中ノ修学年限二ヶ年ヲ三ヶ年トシ農芸伝習科ノ名称ヲ農芸科ト改メ度而カシテ同科給費生ハ給費月額三円ニテハ諸物価騰貴ノ今日実際食費支辨シ能ハサルニ依リ五円ニ増給致度又冬期講習科ハ北海道庁ニ於テ府県ニ於ケル農事巡回教師ノ如キ講話員ヲ本道各地ニ派遣シ農事ノ奨励ヲ計リ居候ニ付今日ニアリテハ存置ノ必要ナキニ依リ校則第十三章ノ冬期講習規程ヲ廃シ更ニ農事篤志者ニシテ本校農場ニ於テ実地農事ヲ修業セントスル者ノ為メニ現業生ヲ置クコトトシ其規程ヲ設ケ度依テ本校々則中左ノ通改正シ来ル四月一日ヨリ施行候様致度候条御許可相成度別紙改正理由書ヲ添ヘ此段謹テ稟申候也

明治三十二年二月廿五日　　校長

文部大臣宛

第二条中「簡易ノ農理及実業」ヲ「農事ニ関スル中等教育」ニ改ム

第三条中「二年」ヲ「三年」ニ改ム

第六条ノ課目及課程ヲ左ノ通改ム

学科及課程

学科＼学年	第一学年	毎週授業時間	第二学年	毎週授業時間	第三学年	毎週授業時間
修身	人倫道徳ノ要旨	二	同上	二	同上	二
国語及漢文	読書作文	三	同上	三	同上	二
英語（随意）		二	同上	二	同上	二
数学及測量術	算術	二	代数幾何	二	三角術測量術	三
物理学	力学、光学、熱学等	三				
化学	無機化学	二	有機化学	一		
気象学					大気風雨農業ニ関スル現象	一
博物学	動物学、人身生理学、植物学、礦物学	五	植物生理学	二		
経済学					経済原論農業経済学	三
法規（随意）					法制大意及農業ニ関スル法令	一
簿記					農用簿記	一
土壌学	種類構造価格等	一	土壌及土地改良	三		
農具論			性質製造施用法	三		
肥料論						
作物論	作物栽培汎論普通作物栽培	三	特用作物栽培	二	果樹栽培	二
園芸論			蔬菜栽培	二	主要ナル農産物ノ製造	二
農産製造論						
畜産学			牛馬飼養蕃殖管理等	二	羊豚家禽蜜蜂飼養蕃殖管理等	二

実業及課程

	第一学年	第二学年	第三学年
養蚕論	飼育、製種検査桑樹栽培	二	二
作物病虫害		同上 害虫作物病理	同上
獣医学			解剖、生理、衛生、治療蹄鉄学ノ大意
体操	兵式体操	二	一
計	二五	同上	同上
実習	無定時	無定時	無定時
			二
			二
			二四
			一

	第一学年	第二学年	第三学年
	耕牛馬使役法	同上	同上
	農具使用法	同上	同上
	普通作物及特用作物栽培法	同上	同上
	蔬菜及果樹栽培法	同上	同上
	家畜飼養法	同上	同上
	肥料製造法	同上	同上
	乾草法	同上	同上
	農用手工	同上	同上
	農具組織	養蚕	同上
		排水及開墾法	同上
		製麻法	同上
		搾乳法	同上
			牛酪製造法
			楓糖製造法
			煉乳製造法
			乾酪製造法
			粉乳製造法
			燻腿塩肉及製油
			蔬菜果実乾燥法
			鑵詰法
			製藍法
			澱粉製造法
			麺麭製造法
			味噌醤油、酢製造法
			醸造法

第十四条ヲ左ノ通改ム

第十四条　農芸科ニ入学スルコトヲ得ル者ハ品行方正身体強健年齢十七歳以上ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スル者トス

一　高等小学校（四学年）ヲ卒業シタル者

二　中学校二学年以上ノ学力ヲ有スル者

三　一号、二号ト同等程度ノ入学試験ニ及第シタル者

第十五条中「農芸伝習科入学試業ハ高等小学校四学年ノ学科及其程度」ノ二十五字ヲ削ル

第四十五条中「数六分」ヲ「ト」ニ「数四分ノ比率ニ由リ」ヲ「ノ和ヲ二除シテ」ニ改ム

第八十二条ヲ左ノ通改ム

第八十二条　給費生ハ品行方正学力優等ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ヨリ之ヲ撰抜ス

一　北海道在籍者ニシテ北海道庁支庁長ノ薦挙ニ係ル者

二　北海道ノ農業ニ従事スル者若クハ其子弟

三　北海道ニ於テ開墾起業ノ目的確実ナル者

第八十三条中「三円」ヲ「五円」ニ改ム

第八十四条ヲ削リ第八十五条ヲ第八十四条トシ以下第九十二条マテ順次繰上ク

第十三章ヲ左ノ通改ム

第十三章　現業生

第九十二条　本校農場ニ於テ実地ニ農事ヲ修業セント欲スル者ハ現業生トシテ之ヲ許スコトアルヘシ

第九十三条　現業生トナルヘキ者ハ品行方正身体強健年齢十八歳以上ニシテ六箇月以上修業ノ見込アル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第九十四条　現業生ハ左ノ一科目若クハ数科目ヲ修業スルモノトス

馬　耕

種　芸

牧　畜

農産製造

第九十五条　現業生タラント欲スル者ハ左式ノ願書ヲ差出スヘシ

（願書式）

願　書

某儀実地農事修業ノ為メ現業生志願ニ付御許可相成度此段奉願候也

族籍

寄留

何　某　印

生年月日

年　月　日

札幌農学校長某殿

第九十六条　前条ノ許可ヲ得タル者ハ左式ノ保証書ヲ差出スヘシ

保証書

族籍

寄留

何　某

右ノ者今般御校現業生御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク為相守係員ノ御指揮ニ従ヒ修業為致可申ハ勿論修業中本人ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候也

族籍

寄留

保証人　何某　印

生年月日

年　月　日

札幌農学校長某殿

第九十七条　保証人ハ丁年以上ノ男子ニシテ札幌区若クハ札幌郡ニ於テ一家計ヲ立テ本校ニ於テ適当ト認ムル者トス

第九十七条中「冬期講習生ハ一ケ月金五十銭」ノ十三字ヲ削リ本条ヲ第九十八条トシ以下順次繰下ク

第九十八条但書ヲ削ル

第百二十九条中「第百二十五条」ヲ「第百二十六条」ニ改ム

第百四十七条中「第百四十五条及第百四十六条」ヲ「第百四十六条及第百四十七条」ニ改ム

本校則中「農芸伝習科」トアルヲ「農芸科」ト改ム

〔別紙〕

農芸伝習科ニ関スル規則改正ノ理由

一　農芸伝習科ヲ農芸科ト改称シ二学年ノ程度ヲ三学年ニ改ムルノ理由

農芸伝習科ハ今ヨリ十有二年前即チ明治二十年三月之レカ規程ヲ設ケ簡易ノ農理及実業ヲ伝習シ来リシモ農事教育ノ発達セシ今日ニ於テハ其程度低ク到底入学志願者ヲシテ満足セシムルコト能ハサルノミナラス実際授業上修業年限短ク為メニ遺憾トスル所少ナカラス故ニ二学年ノ程度ヲ三学年ニ改メ伝習ノ二字適切ナラサルヲ以テ之レヲ削リ単ニ農芸科ト改称シ農事ニ関スル中等教育ヲ授ケントスルニアリ

二　第八十二条及第八十四条ノ給費生トナルヘキ資格改正ノ理由

給費生トナルヘキ従来ノ規程ハ品行方正学力優等又ハ本道郡区長ノ特撰ニ係ルモノニシテ必ス耕地三丁歩以上或ハ未墾地五町歩以上ノ貸下地ヲ有スル者若クハ其子弟ニ限レルモ近年移住民ノ増加スルニ従ヒ小作農法漸次行ハレ大農場ニ小作人トナリ契約ニ基キ数年ノ後相当ノ耕地ヲ得テ地主トナルヘキ目的確実ナルモ目下自己ノ名義ニ係ル所有ノ耕地又ハ貸下地ナキ為メ其子弟ヲシテ給費ノ恩典ヲ蒙ラシムルコト能ハス故ニ耕地所有若クハ貸下地ノ制限ヲ解キ此等ノ子弟中ヨリモ給費生ヲ撰抜シ得ルカ如ク又本道ニ於テ開墾起業ノ目的確実ナル者ハ勿論本道在籍者若クハ其子弟ニシテ支庁長ノ薦挙ニ係ハル者ヨリモ撰抜シテ給費生ニナサントスルニアリ

三　第八十三条給費額三円ヲ五円ニ改ムル理由

従来府県ヨリ気候風土ノ異ナル本道ニ移住シタル農民少ナカラサレハ其子弟ニ本道適切ノ農業ヲ指導スルハ将来拓殖上必要ノ件タリト雖トモ彼ノ移民タルモノ渡航日猶浅ク投資多端ナル境遇ニア

リテ自費以テ其子弟ニ農事教育ヲ授クルノ余裕ナシ而シテ給費月額ハ現今ノ規程ニ依レハ金三円ナルモ本道ハ内地ト異ナリ諸物価騰貴実際ニ要スル費用ノ半ダニ達セス故ニ給費額ヲ増シ金五円トシ此等移住民ノ子弟ハ勿論給費生トナルヘキ資格ヲ有スルモノヲ撰抜シ本道拓殖上有為ナル多数ノ生徒ヲ養成セントスルニアリ

四　冬期講習規程ヲ廃シ現業生規程ヲ設クルノ理由

本校ニ於テ従来冬期講習会ヲ年々開設シ会員ヲ募集シ簡易ノ農学ヲ教授シ来リシモ北海道庁ニ於テモ近来各支庁適当ノ方面ニ時々農事巡回講話会開設スルニ至レルヲ以テ本校冬期講習規程ヲ廃シ更ニ現業生規程ヲ設ケントス其理由ハ従来農事篤志者ニシテ本校農場ニ於テ実地農事ヲ修業セント希望スル者アリシモ入場セシムルノ規程ナク為メニ希望者ノ遺憾トスル所ナリシ故ニ本校農場ノ都合ヲ計リ現業生トシテ此等ノ篤志者ヲ入場セシメントスルニアリ

付　右の件認可

亥専甲三九九号

札幌農学校

本年二月廿五日付札農庶第二〇号伺其校々則中改正ノ件認可ス

明治三十二年三月二十二日　　文部大臣伯爵樺山資紀印

右正本ニ依リ謄写ス

庶務課印

〔農六三二〕

九一八　森林科設置に付教授助教授定員改正の儀上申

札農秘第一三号

本校教授、助教授定員改正ノ義上申

本道ノ森林ハ官有林御料林及民有林ヲ合シテ凡ソ六百万町歩ノ大地積ヲ有スト雖モ拓殖ノ進歩ニ伴ヒ府県ヨリ移住スル者毎年七八万人ノ多キニ登リ人口益増殖スルヲ以テ開墾農業ノ為メ樹林ヲ伐採シ今ヤ薪炭用材ノ欠乏ヲ告クル地方アルニ至レル而已ナラス各種工業ノ進歩ニ伴ヒ営工材即チ鉄道枕木、橋梁材、製造原料ノ如キ本道ノ森林ニ供給ヲ仰クノ材積少ナシトセス故ニ国土保安上ニ於テ保存林ノ管理ハ勿論其経営上ニ於テ林業技術者及森林監守ノ如キ者ヲ養成シテ森林教育ノ普及ヲ謀ルノ必要アルヲ以テ本校ニ森林科ヲ増置スルコトハ夙ニ計画スル処ニシテ既ニ三十二年度ニ於テ其予算ヲ立テ要求シタル処今回予算成立相成候ニ付本年度第一学期ヨリ開始致度就テハ要求之通来ル八月ヨリ年俸一人平均千弐百円以内ヲ以テ同科担当ノ教授三人并ニ月俸参拾五円以内宛ヲ以テ助教授三人及既ニ新設シタル本校予修科担当ノ助教授二人月俸参拾円宛ヲ以テ来ル四月ヨ

リ増員致度候条定員改正ノ御詮議相成候様致度此段謹テ上申候也

明治三十二年二月廿七日

文部大臣宛　　校長

追伸森林科規程、学科課程及増員ニ対スル教授助教授ハ取調ノ上追テ稟申可仕候此段副申候也

〔農六三一〕

九一九　教授助教授定員改正の件（勅令第一〇五号）

朕明治二十六年勅令第二百八号中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年三月三十一日

内閣総理大臣侯爵山県有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百五号

明治二十六年勅令第二百八号中左ノ通改正ス

第三条中教授「八人」ヲ「十一人」ニ助教授「十人」ヲ「十五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

九二〇　文部省直轄諸学校官制改正の件（勅令第一〇七号）

朕文部省直轄諸学校官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十二年四月四日

内閣総理大臣侯爵山県有朋
文部大臣伯爵樺山資紀

勅令第百十七号（官報四月五日）

文部省直轄諸学校官制中左ノ通改正ス

第一条中女子高等師範学校ノ次ニ「札幌農学校」東京工業学校ノ次ニ「東京外国語学校」東京美術学校ノ次ニ「東京音楽学校」ヲ加フ

第二条中「附属音楽学校及」ヲ削ル

第四条削除

第七条中「校長ハ」ノ下「奏任」ヲ「勅任又ハ奏任」ニ改ム

第八条中「教授ハ」ノ下「奏任」ヲ「勅任又ハ奏任」ニ改ム

第十三条ノ次ニ左ノ一条ヲ加ヘ以下順次繰下ク

第十四条　高等師範学校ニ助手ヲ置ク判任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及実験ノ補助ニ従事ス

第十七条中「高等商業学校」ヲ削ル

附則

明治二十六年勅令第二百八号ハ本令施行ノ日ヨリ廃止ス

〔法令全書〕

九二一　森林科規程追加及び土木工学科規程改正の件稟申

札農第二〇号

校則中改正追加ノ件稟申

本道拓殖ノ進運ニ伴ヒ森林教育ノ普及ヲ謀ル必要アルヲ認メ候ニ付本校ニ森林科ヲ増置スル計画ニテ既ニ三十二年度ニ於テ其予算ヲ立テ要求シタル処弥々予算成立相成候ニ就テハ森林技術各科并ニ森林管理及林政学ヲ専ラ修メシメ各学科ニ於テ実習ヲ行ヒ北海道森林ノ経営及管理上必要ナル教育ヲ授クルコトトシ又土木工学科規程中学理及技芸ノ程度ヲ明ニシ農芸科、森林科ノ程度ト同等一定ナラシムル為メ「学理及技芸」ノ五字ヲ「中等教育」ニ改メ且同科入学程度ハ実際低キガ故数学ノ素養不充分ニシテ到底同科ヲ専修スルコト能ハサル実況ニ付中学校三学年修業シタル者ヲ以テ入学セシムル必要ヲ被認候ニ付本校々則中左ノ通改正追加シ本年度第一学期ヨリ実施致度候条御認可相成度別紙理由書ヲ添ヘ此段謹テ稟申候也

明治三十二年四月十八日　　校長

文部大臣宛

追伸土木工学科課程表中第一年級第三学期及第二年級第一第二学期ニ微積分大意ヲ新ニ加ヘ朱書ノ通リ変更ヲ要シ且兵式体操ハ最初申請ノ際脱漏シタルニ依リ此際挿入致度候条併テ御認可相成度此段副申候也

〔別紙一〕

第百五十五条中「学理及技芸」ヲ「中等教育」ト改ム

第百五十八条ヲ左ノ通改ム

第百五十八条　土木工学科ニ入学スルコトヲ得ル者ハ品行方正身体強健年齢十七歳以上ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スル者トス

一　中学校三学年ヲ修業シタル者

二　前号ト同等程度ノ入学試験ニ及第シタル者

第百五十九条ヲ削リ第百六十条ヲ第百五十九条トシ以下順次繰上ク

第百八十七条ノ次ニ左ノ通追加ス

第二十二章　森林科規程

第百八十七条　森林科ニ於テハ林業ニ関スル中等教育ヲ授ク

第百八十八条　森林科修学年限ハ三箇年トス

第百八十九条　森林科ニ於テ修業スヘキ学科及課程ハ大約左ノ如シ

学科及課程

第一年級

	第一期	第二期	第三期
代数	五	三	一
幾何	五	四	一
三角術	一	三	五
物理学及気象学	三	三	四
化学	三	三	三
地質学及土壌学	二	二	二
動物学	三	三	三
植物学	三	三	三
漢文	三	三	三
森林測量	一	一	三
図画	二	二	二
森林測量実習	一	一	六
造林学実習	一	一	三
兵式体操	二	二	二
第二年級			
森林測量	三	三	一
森林数学	二	二	二
造林学	三	三	三
森林利用学	三	三	一
林産製造学	三	三	一
森林経理学	一	一	三
森林保護学	三	三	一
森林管理	二	二	二
経済学	二	二	二
法律大意及森林法	二	二	二
林政学	一	一	二
農学大意	二	二	一
森林測量実習	六	六	六
造林学実習	五	一	五
林産製造学実習	三	九	一
兵式体操	二	二	二
第三年級			
造林学	三	三	一
森林利用学	三	三	一
森林経理学	三	三	一
財政学	三	三	一
林政学	三	三	一

狩猟術	二	二	—
造林学実習	五	五	—
森林経理学実習	五	五	—
実地演習	不定	不定	不定
	二七	二七	

第百九十条　森林科ニ入学スルコトヲ得ル者ハ品行方正身体強健年齢十七歳以上ニシテ左ノ各号ノ一ニ該当スル者トス

一　中学校三学年ヲ修業シタル者

二　前号ト同等程度ノ入学試験ニ及第シタル者

第百九十一条　森林科ニ入学ヲ出願スル者ハ入学願書ト共ニ入学手数料金一円ヲ前納スヘシ

但シ校則第十六条第二項ヲ適用ス

第百九十二条　森林科ニ於テ定規ノ課程ヲ卒リタル者ニハ左式ノ卒業証書ヲ授与ス

（卒業証書式）

姓　名

札幌農学校ニ於テ森林科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ之ヲ証ス

年　札幌農学校印　月　日

札幌農学校長位勲　姓　名　印

第百九十三条　森林科ノ授業料ハ一学年金九円トス

第百九十四条　森林科生徒ハ九十人ヲ以テ定員トス

第百九十五条　森林科生徒中学業優等品行方正ナル者ヲ撰ヒ特待生トナスコトアルヘシ但シ十二人ヲ以テ定員トス

第百九十六条　森林科ノ学年学期及休業、入学在学及退学、懲罰、休学、進級、特待生、授業料及被服規程、及生徒心得ハ総テ校則第三章以下ノ本科規程ニ準拠スヘシ

科目	第一年 第一学期	第一年 第二学期	第一年 第三学期	第二年 学課	第二年 第一学期	第二年 第二学期	第二年 第三学期	第三年 学課	第三年 第一学期	第三年 第二学期	第三年 第三学期
土木工学	代数	五	三	二	分大意〔朱書〕「微積	四	三	一	橋梁	四	三	一
	幾何	五	四	一	応用重学	五	五	五	鉄道	四	四	四
	三角法	一	四	四	建築材料	三	三	五	石工	四	四	四
	分大意〔朱書〕「微積	一	一	二	測量術	四	四	三	造家	四	三	一
	物理学	三	三	一	同実習	六	一	六	水利工学	三	三	一
化学工業学	化学	二	二	一	道路	三	三	三	農業工学	三	三	三
	建築材料	一	一	三	橋梁	三	四	三	器械工学	三	三	四
	測量術	一	一	二	鉄道	二	一	三	衛生工学	三	四	三

課程											
同実習	画法	漢文	英語	「兵式体操」	計	土木ニ関スル法令	工事設計実習				
—	六	三	四	二	三〇	四	六	二八	二九	二九	
—	六	三	四	二	三一	四	六	二九	二九	二九	
四	四	三	四	二	三〇	三	四	二	二	二	
石工	画法	英語									
—	四	四		二	三二	二	二	二	二	二	
—	三	四		二	三一	二	二	二	二	二	
三	—	三		二	三一	二	二	二	二	二	

〔別紙二〕

森林科新設ノ理由

本道ノ森林ハ官有林五、六三〇、〇〇〇町歩御料林六十万町歩民有林九〇〇〇町歩合計凡六百二十三万九千町歩ノ大地積ヲ有スルヲ以テ其経営上技術者ノ養成甚タ必要ナリトス左ニ其理由ノ概要ヲ述ベン

一　本道ノ移住者ハ毎年七八万人ノ多キニ至リ開墾農業ノ為メ樹林ヲ伐採シ薪炭用材ノ欠乏ヲ告クルニ至レル地方少ナシトセス此等ノ地方ニハ適当ノ設計ヲ立テ造林ヲナスノ必要アリ故ニ森林教育ノ普及ヲ謀ルノ必要アリ

一　水源涵養林、防風林、土砂扞止林、魚付林其他保存林ヲ適当ニ管理スルハ国土保安上必要ナリ本道ノ保存林ハ今日ヨリ其適切ノ設計ヲ立ルノ必要アリ故ニ林業技術者ヲ養成スルノ必要アリ

一　各種工業ノ進歩及建設物ノ増加ニ伴ヒ営工材即チ鉄道枕木、橋梁材、家屋用材又ハ製造原料ノ如キ本道ノ森林ニ供給ヲ仰クノ材積年々少ナシトセス故ニ適当ノ施業法ヲ立テ供用林ノ利益ヲ持続的ナラシムルコト甚タ必要ナリ是レ森林教育ヲ起シテ林業家ヲ養成スルノ必要アリ

一　人口ハ稀少ニ愛林ノ念薄キ本道ノ如キ地方ニ於テハ森林ノ監守ハ特ニ必要ナリ年々過濫伐又ハ野火等ノ為メ森林ヲ荒廃セシムルコト少ナシトセス是レ今日簡易ノ林業教育ヲ与ヘテ森林管理者ヲ養成スルノ必要アル所以ナリ

土木工学科規程中改正必要ノ理由

一　校則第百五十五条中同科ニ於テハ「土木工学ニ関スル学理及技芸ヲ授ク」ト規定シアレトモ右ニテハ其程度判然セサルヲ以テ「学理及技芸」トアルヲ「中等教育」ト改ムル必要アリ

一　土木工学科入学程度ハ高等小学校卒業四学年又ハ中学校二学年修業シタル者若クハ之ト同等ノ学力ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツル規程ニ候ヘ共右ニテハ特ニ数学ノ素養不充分ニシテ到底該科ヲ専修スルコト能ハサル実況ニ付中学校三学年修業シタル者ヲ以テ入学セシムルコトニ改ムル必要アリ

付　右の件認可

亥専甲一〇六八号

札幌農学校

本年四月十八日付札農第二〇号伺其校々則中改正及追加ノ件認可ス

明治三十二年五月十一日　文部大臣伯爵樺山資紀印

右正本ニ依リ謄写ス

庶務課印

〔農六三二〕

九二二　校長職務規程制定の件

亥秘甲五一七号

札幌農学校

其校々長職務規程左ノ通相定ム

明治三十二年四月廿八日　文部大臣伯爵樺山資紀印

〔別紙〕

校長職務規程

第一条　校長ハ判任官ノ進退ヲ具状シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ申稟スルコトヲ得

第二条　校所属職員ノ除服出仕暇願及高等官他官庁其他ノ事業嘱託ニ応スルノ願ハ文部大臣ノ委任ニ依リ校長之ヲ判行ス

校所属ノ職員ヲ各地ニ出張セシムルハ校長ノ判行ニ任ス

第三条　講師ヲ嘱託スルハ文部大臣ノ許可ヲ得ルヲ要ス

雇員ノ進退ハ其俸給月額二拾円ヲ超ユル者ハ文部大臣ノ許可ヲ得ルヲ要シ二拾円以下ノ者ハ之ヲ判行スルコトヲ得

嘱託講師及雇員ノ各地出張及除服出仕暇願ハ前条ノ例ニ依ル

第四条　校長ハ教官ノ学科担任ヲ定メ事務員ノ分課ヲ命ス

第五条　校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ経テ高等官ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六条　左ノ事項ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ後施行スヘシ

第一　学科課程ヲ定ムル事

第二　規則ヲ定ムル事

但シ既定規則ノ範囲内ニ在テ其細則ヲ設クルハ此限ニアラス

第三　授業料、試験料其他諸収入金ノ定率ヲ定ムル事

第四　外国人ヲ雇入レ其条約ヲ定メ若クハ条約期限内ニ雇ヲ止ムル事

第五　雇外国人ヲ各地ニ派遣スル事

第六　地所建物ヲ増減スル事

第七　歳入歳出予算ニ依ルノ外新ニ義務ヲ負担シ及権利ヲ棄却ス

ル事

第八　経費中ノ目ヲ流用スル事

第九　臨時休業スル事

但シ急速ノ場合ニ在テハ臨時処分シテ後申報スルコトヲ得

第十　右ノ外例規ナキ重大ノ事件ヲ処置スル事

第七条　校長ハ毎会計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ文部大臣ニ報告スヘシ

〔農六三一〕

九二三　学生を生徒と改称の儀に付内申

学生ヲ生徒ニ改正ニ関スル件

本校学生ヲ生徒ニ改正ノ件ニ関シ専門学務局長ヨリ別紙之通申越候処元来本校ハ一種特別ノ学校ニシテ其成立他直轄学校ト同視スヘキモノニ無之然ルヲ本年四月四日勅令第百十七号ヲ以テ本校ヲ直轄諸学校官制中ヘ加ヘラレタル為メ如斯学生ト唱フルコトヲ得サルニ至レリ是レ官制ノ許サヽル処ナルガ故本省ニ於テモ此必要ヲ起ルハ尤ノ事ナレトモ此論法ヲ以テ進行スルトキハ卒業生ガ特ニ得タル処ノ農学士ノ称呼モ勢ヒ他ノ直轄学校ノ生徒ト等シク之ヲ唱フルコト得サルガ如シ果シテ然ラハ官制ノ改正ハ所謂既得権ヲ害シタルモノニシテ事小ナリト雖モ本校ニ及ホス処ノ影響ハ其不利益又大ナリト被認候条矢張本校ハ一種特別ノモノトシ此際別ニ官制ヲ改定相成候様致度御通報旁此段内申候也

明治三十二年五月二日　　校長代理

在京佐藤校長宛

〔別紙〕

亥専甲九八三号

帝国大学官制第七条ニハ教授ハ云々学生ヲ教授シ其研究ヲ指導ス又直轄諸学校官制第八条ニハ教授ハ云々生徒ノ教授ヲ掌ルト有之候ニ付テハ貴校ニ於テモ右ノ例ニ依リ在学者ハ生徒ト称セラレ候方可然候処貴校規則中学生ノ文字ヲ用ヒラレ居候ニ付テハ往々差支ヲ生スル義モ有之候条右ハ生徒ト改正ノ上其旨御申出相成度依命此段申進候也

明治三十二年四月二十八日

文部省専門学務局長文学博士上田万年 印

札幌農学校長佐藤昌介殿

〔農六三一〕

九二四　舎則改正の旨達

達第八号

教務部㊞（宮部）㊞（尾泉）　農事部㊞（南）
舎監部㊞（南）㊞（尾泉）　図書館㊞（原十太）
博物館㊞（原十太）　植物園㊞（宮部）
庶務課㊞（石田）　会計課㊞（平岡）

明治三十年八月三十一日達第二二号札幌農学校舎則左ノ通改正本年六月一日ヨリ施行ス

但シ明治三十年十月六日達第二六号農芸伝習科寄宿舎々則ハ本達施行ノ日ヨリ廃止ス

明治三十二年五月廿二日

札幌農学校長農学博士佐藤昌介 印

札幌農学校舎則

第一条　本校寄宿舎ハ校費生ヲ寄宿セシムル所トス但シ私費生ト雖モ許可ヲ得テ入舎スルコトヲ得

第二条　本科私費学生ニシテ入舎セント欲スル者ハ左ノ書式ニ依リ出願スヘシ

（書式）（用紙半紙）

入舎願

私義入舎仕度候間御許可被成下度御許可ノ上ハ舎則ヲ厳守可仕候

此段奉願候也

年　月　日

本科第何年級学生
氏名　印
属籍住所
保証人　氏名　印

札幌農学校長氏名殿

第三条　入舎ノ許可ヲ得タル者ハ其日ヨリ三日以内ニ食料及諸雑費トシテ一箇月分ヲ舎監部ニ差出シ尚翌月ヨリハ其月分ヲ五日限リ前納スヘシ若シ本人ニ於テ遅滞スルトキハ保証人ヨリ直ニ辨納スヘシ

第四条　寄宿生ハ本校々則命令達告示等ヲ遵守スルハ勿論舎内ニアリテハ特ニ風紀ヲ守リ学生タルノ品格ヲ汚スカ如キ挙動アルヘカラス

第五条　寄宿生ハ酒類若クハ舎内ノ整頓秩序ニ妨害アル物品ヲ舎内ニ携持スルコトヲ得ス

第六条　寄宿生ハ舎内ニ於テ放歌吟詩高声拍手等ヲナシ又ハ楽器ヲ用フルコトヲ得ス

第七条　寄宿生ハ左ノ諸件ヲ遵守スヘシ

一　室内ヲ清潔整頓ナラシムルコト

二　舎内ニ於テハ靴又ハ草履ヲ用フルコト

三　午前六時乃至七時晨起スルコト

四　午後九時三十分乃至十時三十分就褥スルコト
五　午後十時煖炉ヲ消火スルコト
六　午後十時三十分消燈スルコト
七　外出スルトキハ消火消燈ノ上室内ニ相当ノ締ヲ施スコト
晨起就褥ノ時間ハ撞鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第八条　外来人ニ面会スルトキハ必ス応接所ニ於テシ舎内ニ誘引スルコトヲ得ス但シ病気ノ為メ応接所ニ到ルコト能ハサルトキハ舎監又ハ当直員ニ申出指揮ヲ受クヘシ点燈後ハ外来人ニ面会スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事故アリテ舎監又ハ当直員ノ承認ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第九条　舎監部員及巡視ハ何時ニテモ室内ヲ点検スルコトアルヘシ
此場合ニ於テ寄宿生ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十条　臨時必要アル場合ニ於テ舎監ハ寄宿生ニ対シ人員ノ点検ヲ為ス但シ時宜ニ依リ当直員之ヲ行フコトアルヘシ

第十一条　寄宿生ノ外出時限ハ左ノ如シ
一　平日ハ午後九時迄
二　休業日ノ前日及休業日ハ午後十時迄
帰舎ノ定刻ヲ過クルトキハ舎内ニ入ルコトヲ許サス但シ正当ノ理由アル者ハ此限ニアラス

第十二条　帰舎定刻ニ後レタル者ハ其理由ヲ詳記シタル書面ニ保証人連署ノ上三日以内ニ舎監部ニ差出スヘシ

第十三条　寄宿生外出スルトキハ制服ヲ著用スヘシ但シ正帽袴ヲ著用スルコトヲ得

第十四条　寄宿生已ムヲ得サル事故アリテ外泊セントスルトキハ其事由及其日数ヲ記載シテ保証人連署出願スヘシ

第十五条　寄宿生旅行セントスルトキハ其事由目的地及日数ヲ詳記シ保証人連署ノ上出願スヘシ但シ定期休業中ニ係ルトキハ書面ヲ以テ届出ヘシ
前項ノ場合ニ於テハ発着トモ書面ヲ以テ舎監部ニ届出ヘシ出張ノトキモ亦同シ

第十六条　寄宿舎一室ニ備付ノ物品ハ左ノ如シ但シ私費生ノ室ニハ椅子卓等備付ケサルコトアルヘシ

椅子	二	卓	二
寝台	二	置戸棚	一
煖炉	一	帽子掛	二
陶器壺	一	亜鉛桶	一
紙屑籠	一		

第十七条　舎内ニ属スル物品ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ其共用者連帯弁償ノ責ニ任スヘシ

第十八条　卒業シタル者若クハ退舎ヲ命セラレタル者ハ其日ヨリ三

日以内ニ退舎スヘシ

前項ノ場合ニ於テ室内ノ備品ハ舎監部ニ申出検閲ヲ受クヘシ自己ノ便宜ニ依リ退舎スル者モ亦同シ

第十九条　寄宿生軽症ノ疾病ニ罹リタルトキハ室内ニ於テ医療ヲ受クルコトヲ得若シ一週間ヲ経ルモ治癒セス又ハ重病及伝染病ニ罹リタルトキハ保証人ヘ通知シ最寄病院ニ入ラシム

第二十条　総テ示達ハ三日ヲ経レハ一般ニ知了シタルモノト認ム

第二十一条　寄宿ニ関スル願届ハ総テ舎監部ニ差出スヘシ

第二十二条　食事及浴湯時間ハ左ノ如シ

朝飯　自午前七時至同八時

昼飯　自正午十二時至午後一時

夕飯　自午後五時至同六時

浴湯　日曜日及水曜日自午後三時至同六時

第二十三条　寄宿生中ニ委員長一名委員三名ヲ置キ舎監部ノ監督ヲ受ケ左ノ事項ヲ負担セシム

一　学資ノ出納ニ関スルコト

二　寄宿生ニ関スル命令達其他ノ事項ヲ伝達スルコト

第二十四条　前条各委員ハ寄宿生ノ互選投票ニ依リ之ヲ定ム但シ被選者ハ其旨舎監部ニ届出ヘシ

第二十五条　委員長ハ委員ヲ監督シ本舎則第二十三条実行ノ責ニ任ス

第二十六条　本舎則ニ背戻シタル者ハ退舎ヲ命ス仍ホ情ノ重キ者ハ本校々則第五章懲罰規程ニ拠リ処分ス

第二十七条　本舎則ハ農芸科寄宿舎ニモ之ヲ適用ス但シ晨起就褥門限食事浴湯時間及物品備付等ハ舎監部ニ於テ経伺ノ上別ニ定ムルコトヲ得

〔農六四三〕

九二五　予修科土木工学科森林科農芸科組長選出に付伺

明治三十二年十一月十七日　　書記石田友治郎㊞

舎監部長㊞（南）

校長㊞（佐藤）　　舎監副部長㊞（尾泉）

教務部長㊞（宮部）

各級組長ヲ定ムル件

予修科、土木工学科、森林科、農芸科毎級ニ組長ヲ置キ各級ニ於ケル諸般ノ事ヲ取締ラセ度右ハ事アルニ際シ取調上差支之事情モ有之候間其級生徒ヲシテ互ニ投票ヲ以テ選抜セシメ其被選者ヲ組長ニ定メラレ可然哉御裁可ノ上ハ舎監部長ヨリ其旨本人共ヘ口達ノ上左ノ如ク掲示致度併テ相伺候也

但シ組長事故アルトキハ次高点者ヲシテ代理セシム又組長ハ学年

毎ニ之ヲ改選スルモノト定メ度

掲示按

学生々徒

予修科、土木工学科、森林科、農芸科各級組長ヲ定ムルコト左ノ如シ

予修科第二年級
　組長　黄金井解三
　副組長　古野　嵩茂
〃　第一年級
　組長　小島　清
　副組長　木堂　楳作

土木工学科第三年級
　組長　細川　健
　副組長　池田直次郎
〃　第二年級
　組長　服部　幸一
　副組長　村上　藤枝
〃　第一年級
　組長　五十嵐鎌馬
　副組長　辺見　勇彦

森林科第一年級
　組長　水谷美津彦
　副組長　成田　勝雄

農芸科第二年級
　組長　茂庭幸次郎
　副組長　高井虎之助
〃　第一年級
　組長　斎藤　正吉
　副組長　森友佐太郎

右掲示ス

明治三十二年十一月　日

舎監部

〔農九四九〕